

辺 清音

1. 事業実施の目的

世界海外華人研究学会 2016 年度国際会議での成果発表

2. 実施場所

カナダ・バンクーバー

3. 実施期日

平成 28 年 7 月 5 日 (火) から 7 月 11 日 (月)

4. 成果報告

●事業の概要

世界海外華人研究会 (The International Society for the Study of Chinese Overseas, ISSCO) は 1992 年に設立され、目的は、華僑・華人を研究対象とする世界中の研究者が集まり、研究を進め、交流することである。学会誌『華人研究』(Journal of Chinese overseas) は年 2 回発刊され、民博の図書室にも収録されている。

本学会は毎年地域会議を行い、3 年毎に国際会議を開催する。2016 年の国際会議は第 9 回目であり、テーマは「形成中のアイデンティティ：現代と歴史における華人移民」(Emerging Identities: Contemporary and Historical Chinese Migrations/形塑中的认同：当代与历史之华人移民) である。今回の会議は、カナダのバンクーバーでブリティッシュコロンビア大学の主催により、Sheraton Richmond Airport で開催された。

今年の国際会議には、48 の分科会があり、「中国系カナダ人としてのアイデンティティの形成」、「考古学から見る華僑研究」、「中国人留学生としての立場の形成」、「伝統と変化：東南アジアにおける葬式と中国的儀礼」、「ニュージーランドとオーストラリアにおける華僑の遺産」、「南アメリカ、カリブ海地域とアフリカにおける中国人移民：人種、階層、ジェンダー、集団内外の関係に関する考察」、などのテーマで分科会が設けられた。

会議の参加者は日本、中国、台湾、香港、マレーシア、シンガポール、カナダ、アメリカなどから 200 人余りに上がる。彼らの研究分野は人類学以外に、社会学、政治学、歴史学、地理学、考古学、文学などもある。参加者は、それぞれの立場と観点から、東アジアをはじめ、東南アジア、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアやアフリカなどの地域における華僑・華人に関する最新の研究成果を発表し、議論した。

申請者はこのような大規模な国際学会の参加と発表を通して、日本、東南アジアやアメリカ大陸における華僑・華人の最新状況を把握することができた。また、中国の国境を越えて移動した回族など少数民族の移民の歴史と現状もわかった。更に人類学を含む多分野の理論と分析の枠組みを勉強することができた。

今回の会議では、申請者は多数の発表を聞くことができ、自分の研究と最も近い日本の華僑・華人に関する 2 つの分科会に参加した。

分科会 41 : 「日本、カンボジア、ミャンマー：トランスナショナル移民と華僑に関する再考」
(From Japan, Cambodia to Burma: Transnational Migration and Chinese Overseas Revisited)

この分科会において、王維氏は函館の事例を取り上げた。華僑・華人が如何に中国からもたらしてきた血縁関係と地縁関係を活かしながら、日本の地域社会に根を下ろして、教育の資源や同業のネットワークを利用して、自分たちの成功を実現したのかを論じた。

分科会 42 : 「トランスナショナルなアイデンティティの構築」(Transnational Identity Construction)

この分科会において、申請者は発表した。また、張玉玲氏は日本における福建系の移民の故郷の1つである福清の事例を取り上げた。張氏は、在日福建系の人々が故郷とのつながりを通して、日本にいる親族や同郷の人々、香港や他の地域の福清出身者とのネットワークを編み上げてきたことを考察した。

また、分科会 41 と 42 において、銭江氏は、カンボジアの華商組織が如何に地域社会において、政治界との繋がりを活かし、自分たちの安全と経済的な利益を守っているのかを明らかにした。段穎氏は中国系ミャンマー人の市民意識とアイデンティティを論じた。林緯毅氏はシンガポールの華僑・華人の社会における道教信仰の危機を議論した。

申請者は以上のセッションを通して、日本の華僑・華人に関する最新の研究状況を把握することができた。また、異なる地域の華僑・華人の歴史と現状の最新状況に関する発表を聞き、華僑・華人研究の地域差異と共通点について、比較と思考することができた。

●学会発表について

申請者は分科会 42 : 「トランスナショナルなアイデンティティの構築」(Transnational Identity Construction) で、「華僑の多重的ネットワークから見る越境的エスニシティと地域性—日本神戸『南京町中秋節』を事例に」(从华侨的多重网络看都市文化中跨越边界的民族性与地方性) というテーマで中国語で発表した。

本発表は、文献資料、インタビュー調査と参与観察のデータをまとめ、南京町の代表的なイベントである中秋節の創出の過程を詳しく考察した。具体的に、中秋節の創出の主役である南京町商店街振興組合及びそれに所属する青年部、南京町中華料理店協会などの果たした役割と機能を分析し、特に、彼らは阪神淡路大震災後に、如何に地域社会に貢献しながら南京町の中秋節を創出したのかを明らかにした。そのうえ、チャイナタウンとしての南京町のイベントの創出から、華僑・華人内部の相互関係、彼らと地域社会のネットワークを議論した。

本発表について、日本国内外の研究者から、以下のような評価とコメントをいただいた。

1. 南京町の中秋節の創出について、新しく詳しいデータを収集したことで、研究者たちに評価された。
2. 中秋節を創出する組織をより詳しく紹介する必要があると指摘された。チャイナタウン

のイベントについては、振興組合、中華料理店協会の構成（華僑・華人と日本人の比例や、組織成員のライフヒストリーなど）を明らかにすることにより、多重なネットワーク、越境的なエスニシティがより明確に議論できると、研究者たちの意見をもらった。

また、今後のフィールドワークと博士課程の研究に対し、以下のような助言を受けた。

1. 南京町の社会構造を明らかにすることが、フィールドワークを通して期待できる。
2. 南京町において、異なる時代に移住してきた華僑・華人の歴史と現状を明らかにすることが必要である。それは今後の博士課程の研究の基礎になる。
3. 今回の発表を通して、華僑・華人の公共性の問題が見えた。それによって、より広い視野で博士課程の研究を進めることが期待できる。

●本事業の実施によって得られた成果

本事業の実施によって得られた成果は3つある。

1. 国際的な学会に参加し、世界における華僑・華人に関する最新の研究成果を聞くことで、世界の華僑・華人の状況を把握することができた。
2. 日本、韓国、中国、台湾、香港、マレーシア、シンガポールやアメリカの研究者と交流し、博士課程の研究に対する助言やコメントを得た。
3. 最新の華僑・華人研究と比較しながら、申請者の博士課程の研究のオリジナリティーと可能性を確認できた。

本事業の実施によって最も反省した点は、国際会議での発表の言語に関することである。今回の発表は中国語で行ったが、より多くの研究者と交流するため、英語での発表は必要であると、痛感した。

●本事業について

本事業のような枠組みにおいて海外の国際学会で研究発表を行ったことは、学生にとって非常に有意義なことであると同時に、総研大の国際発信にもつながる。

今回の学会で、学術的な刺激をたくさん受け、最新の研究状況を把握したうえで、博士課程の研究に有益な意見と助言を得た。国際的な学会に参加した経験を活かし、今後の研究を進めたいと思う。